

### 「まちなか」の様々な機能



- 商業施設 (大型店) 郵便局 総合病院
- 商業 (大型店、商店街など)
  - 金融機関 (銀行、郵便局など)
  - 医療機関 (総合病院など)
  - 公共機関 (市役所、図書館など)
  - 住居 (賃貸住宅など)
  - 公共交通の結節点 (JR、バス)

効率のよいまちづくり  
今後予想される厳しい財政状況から、新たな場所に投資することは難しいため、過去に一番基盤整備をして様々な機能が揃っている、利便性の高い場所を核として、まちづくりを進めていくことが、効率的なまちづくりにつながると言えます。つまり「まちなか」がその最適地であるといえるのです。

#### CAPの目標と基本方針

##### CAPの目標

『暮らしてみたいまち 出かけてみたいまち 苫小牧!』  
誰もが安心して暮らせる「ひとにやさしいまち」、地域の特徴を活かした「誇りと愛着が持てるまち」を目指します。

##### 基本方針

- ① まちなか居住の推進  
様々な都市機能が集積し、暮らしやすい生活空間であるまちなかへの居住を推進します。また、超高齢社会を踏まえ、車に頼らずに暮らせる生活空間づくりを目指します。
- ② 商業の活性化  
郊外型大型店のような商品構成や店舗展開ではなく、まちなかにしかないオリジナリティを作り出し、郊外型店との差別化を目指します。
- ③ 地域ブランド戦略による地域活性化  
人口減少・高齢化の進行による地域経済の弱体化に歯止めをかけるため、東胆振地域ブランド戦略事業を展開し、観光客などの交流人口を増加させ、地域活性化を目指します。
- ④ 公共交通の利便性向上  
将来の人口減少・超高齢社会に対応した公共交通体系を構築します。クセスや、まちなかでの移動利便性の向上を目指します。

# CAP (まちなか再生総合プロジェクト)

~人口減少・超高齢社会に対応したまちづくり~



苫小牧市公式キャラクター「とまちょっぴ」

Central Tomakomai Active Project 詳細 まちなか再生主幹 ☎32-6062

市では、将来の人口減少・超高齢社会に向けた持続可能なまちづくりの実現に向けて、今年6月にCAP(まちなか再生総合プロジェクト)プログラムパートIを策定しました。今回の特集ではCAPの考え方と主な事業について紹介します。

### CAPが目指す「まちの将来像」

- ① 「人口減少」・「高齢化」・「経済活力の低下」に対応したまちづくりを進めます  
人口減少・超高齢化、それらに伴う経済活力の低下に対応するため、かつての右肩上がり前提のまちづくりを見直し、既存の都市機能を活かしたコンパクトなまちづくりを目指します!
- ② まちなかの活性化を通して20年、30年先も持続可能なまちづくりを目指します  
過去に一番基盤整備し、暮らしに役立つ様々な機能が集積するまちなかの利点を活かし、まちづくり全体の観点から持続可能な効率性の高いまちづくりを目指します!
- ③ 民間組織と連携した官民協働のまちづくりを目指します  
まちづくりに対して高い意識を持つ民間組織と連携し、民間のノウハウを活かした事業展開を図ります!

## CAPのポイントを詳しく説明しよう!

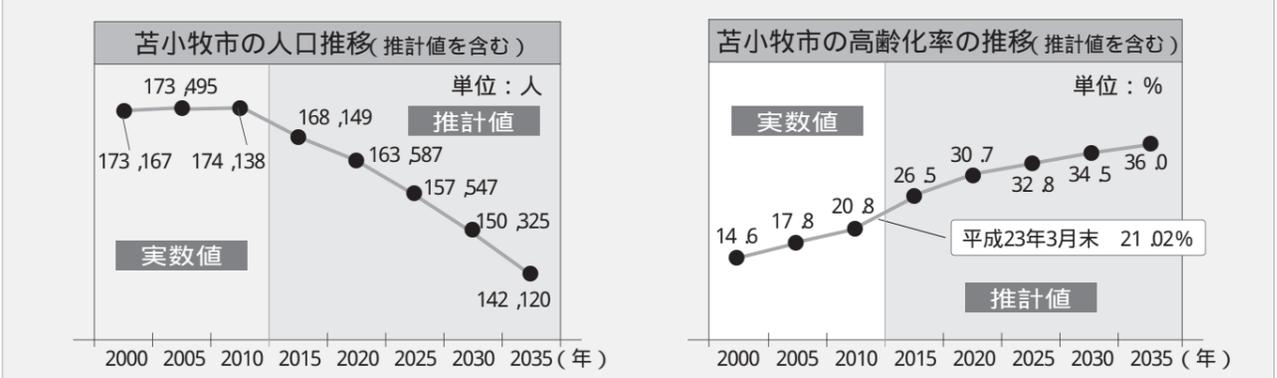


**Point1** なぜ「まちなか」が最適地?  
まちなかが衰退しても自分には全く関係ないよ!と思うかもしれないけれど、実は将来的に困ってることがいっぱいあるんだよ。例えば、人口減少や高齢化の影響で様々な需要が減って、将来的には商業施設の閉鎖や公共施設の統廃合などが予想されるんだ。そうすると、まちのあちこちで大切な都市機能が歯抜けになってしまうんだ。そうしたとき、どこかにまとまった機能が集積した「便利な場所」が必要になってくるであろう。しかも超高齢社会であることを考えるとそこは車を運転できない高齢者でもアクセスしやすい場所である必要がある。それが「まちなか」というわけなのだ。過去にも様々な基盤整備を行ってきた、まちなかには暮らしに便利な機能が集積しているだけではなく、なんといつでも公共交通の結節点であるのだからね。

**Point2** 人口減少・超高齢社会の影響と今後の対策について  
人口が減り、高齢者が増えるということは、経済を支える若年層が減ることになるので、当然消費は低迷してしまうんだ。また、一生懸命働いて税金を納める若い世代が減ることになるので、市の税収は落ち込むことが予想されるのだよ。  
一方で人口増を予測してつくったまちの維持管理コスト(道路、公園、上下水道、公共施設など)は高止まりし、さらに高齢者は今後も増加が予想され社会保障に要する費用は増大してしまうことになるんだ。  
つまり今後は、限られた予算で、しかも徐々に収入が減っていく中で、いかに投資の効率性を考えたまちづくりができるかが大きなポイントになってくるのだよ。



**時代背景とまちなか再生の意義**  
今までの苫小牧  
人口増加・車社会の進展を背景に、宅地造成や商業施設の進出などでまちが郊外へ拡大した。  
居住・商業・公共などの様々な都市機能が郊外へと分散していった。  
その結果、多くの市民の主な生活圏が郊外に移ってしまった。  
これからの苫小牧  
下記のグラフで示すとおり、人口減少・超高齢社会という時代の大転換期を迎え、従来のまちづくりでは通用しなくなる。  
このまま都市機能が分散すると、まちなかが衰退するだけではなく、まちの機能を維持することが困難になる恐れがある。  
まちを維持し続けるためには...  
都市機能の拡散傾向に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積した効率性の高いまちづくりを目指さなければなりません。



2010年までは実数(各年12月末)、2015年からは推計値(資料:国立社会保障人口問題研究所)。高齢化率21%以上になると「超高齢社会」といわれ、苫小牧市は平成23年3月末現在(住民基本台帳)で21.02%となり「超高齢社会」に入っています。